

学校でのいじめ問題への

対応について

公明党
勲

問 教育長は平成28年度教育行政執行方針において「砂川市いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止にかかわる校内組織の機能化を図るとともに、いじめや不登校などの生徒指導上の諸問題について、未然防止、早期発見、早期対応を図ることのできる環境づくりに努めてまいります。」と述べています。

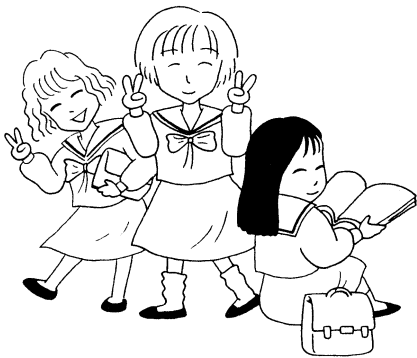
そこで、砂川市内における小・中学校のいじめ問題の現状について伺います。

答 市内全ての小・中学校の児童生徒を対象に「いじめアンケート調査」を行ったところ「平成27年4月から11月調査時点まで、いじめられたことがある」と回答した児童生徒が、小学校では17名、中学校で1名という結果です。

担任や生徒指導部による教育相談を通して、当該児童生徒やその保護者並びに加害児童生徒から詳細に事実を聞き取り、確認したところ、いじめと認知する事案はなかったところでした。

問 教育委員会の会議の中でいじめ問題に対する協議状況や今後の対応について伺います。

答 市内全ての小・中学校で6月と11月に実施している「いじめアンケート調査」の結果については、定例の教育委員会議で委員へ報告し、各学校における回答率や取組み状況をはじめ「いじめは絶対に許されない行為である」という倫理観や規範意識のあり方などにつき、協議を行っています。アンケート調査以外で発覚したいじめ問題についても取組みが徹底されるよう学校に指導していきます。



飲酒運転撲滅に向けた

取組みの強化について

みらい砂川
武田 圭介

問 飲酒運転をさせないための新たな啓蒙、啓発、教育活動について、市の考えを伺います。

答 今年度、新たに6月6日に飲酒運転撲滅集会を開催しました。

このほか、飲酒運転防止を目的としたDVDの貸し出し、飲食店や酒類販売店に対する卓上のぼりの配布やその周辺の駐車場所有者に対する看板の提供、イベントの主催者に対するのぼりの貸し出しなどを実施し、さらに広報すなわで広く市民に周知しています。

今後は、市内の事業所に対して、飲酒運転防止を呼び掛ける文書を送付するとともに、砂川郵便局製作による飲酒運転撲滅を啓発するための郵便はがきが全世帯に届くよう協力していきます。

問 取締効果・抑止効果を出すために、砂川警察署の増員や施設整備、交通機動隊の再常駐について、警察本部と粘り強く交渉すべきですが、市の考えを伺います。

答 より一層の取締効果・抑止効

果を期待して、砂川警察署に改めて地域の実情を伝え、継続的な体制強化・充実に図られるよう交通機動隊の再配置等を含めた要請をしていきたいと考えています。

問 啓発のあり方について、常に市民等に訴えかけを図っていくことが大事ですが、その点、今後どのように考えているのか伺います。

答 飲酒運転を撲滅し、安心して暮らせる地域社会を実現するため、あらゆる機会を通じ悲惨な交通事故を教訓として風化させない取組みが必要であり、各種事業を実施していききたいと考えています。



中小企業後継者育成雇用支援の 創設について

創生会
多比良和伸

問 市内中小企業において、経営者の高齢化が進み、特に商店街では深刻な後継者不足に悩んでいます。このままでは近い将来、後継者不在による閉店が相次ぎ、いわゆるシャッター街化していくことが懸念されます。平成25年の一般質問時にはニーズ調査をし、他市町の取組み状況の精査をするとしていましたが、これまでの調査・検討経過について伺います。

答 昨年度の空き店舗等の実態調査を踏まえ、今年度、街の声を聞きます。また、他市町の取組みとしては、広島県世羅町の商工会が、町から助成を受け、後継者不足により事業が困難な状況が見込まれる等、一定の要件を満たした中小企業に対して、人件費として年間60万円を助成しており、平成24年から14件の実績があります。

問 現在、中小企業が今後どのように考えているのか。また、後継者の有無について市として、どう把握しているのか伺います。

答 今後に関する考え方、また後継者の有無について聴き取り等による実態把握は行っていないです。

問 今後の取組みについて伺います。

答 商工会議所と連携し、中小企業を訪問し、現状や後継者の有無等について調査を実施します。それらに基づき今後の支援のあり方について検討します。

問 市長の考えを伺います。

答 各商店が市民に顔が見える活動をして頂き、それらの活動の中で必要な支援を市と一緒に協議しながら支援していきます。



シャッターアート

空き家対策について

市民の声
小黒 弘

問 砂川市の空き家件数は平成27年度末で573件、年間100件以上増えています。また、持ち家に住む65歳以上の高齢者単身世帯は平成7年に21世帯だったのが平成27年には834世帯となりました。今後ますます空き家が増え続ける状況です。

放置空き家は美観を損なうばかりか防犯上、環境衛生上も多くの問題を含みます。そうならないためにも空き家対策に力を入れなければなりません。市長の考えを伺います。

答 空き家情報について、マンパワーを充実させ行政が一軒一軒回って、売りたい、売らたくない、壊したいなどの状況を把握し、それをデータベース化してニーズを職員が直接橋渡しをする。例えば、売却したいが解体費の方が高い、古くて売れないなど状況が分からない限り市の対策は取れません。

実態を把握した後は、町内会も巻き込んで、不動産業者にも協力してもらいたいと考えています。

また、北海道で唯一住み替え支援の資格を持っている北海道銀行と協定を結んでいるので、融資も含め住み替え支援をしていきたい。

問 空き家の流通に役立つ助成制度としてハートフル住まいの中古住宅購入費助成があるが、他市町と比べて非常に弱いが見直す考えについて伺います。

答 砂川市は住宅戸数の多さもあるが、今のままで良いとは思っていません。実態調査をしながら期待に沿えるような補助制度を作っていくと考えています。



売家